

第11回 苫小牧市スポーツ推進審議会結果報告書

【日時】 令和元年5月29日（水）18時～19時

【場所】 市役所本庁舎5階第2応接室

【出席】

▽苫小牧市スポーツ推進審議会委員 12名（12名中）

本間会長、永石副会長、池田委員、加藤委員、木田委員、工藤委員、
島崎委員、鈴木委員、中村委員、藤岡委員、前田委員、宮野委員

▼事務局（市）

岩倉市長（公務のため途中退席）

総合政策部 : 木村部長

まちづくり推進室 : 柴田室長

スポーツ都市推進課 : 神保課長、畠山課長補佐、木村主査、戸澤主事、
大村主事、林川主事、荒谷主事、浦主事、佐藤主事

～～～議事内容（審議経過・意見・質問等）～～～

1 開会（会長選出まで神保課長の進行）

2 委嘱状の交付

岩倉市長から委員に委嘱状交付

3 市長挨拶（岩倉市長）

4 委員及び職員自己紹介

5 会長・副会長の選出

本間会長、永石副会長を選出

6 議事（進行：本間会長）

※ 以下の質疑・意見については、▽は委員発言、▼は事務局発言。

(1) 苫小牧市スポーツ推進審議会・苫小牧市スポーツ推進計画について
(※事務局から説明)

- 審議会の根拠となる法令、推進計画の概要を説明（資料1～3参照）

(2) 苫小牧市のスポーツについて（※事務局から説明）

- スポーツ都市宣言について説明（資料4参照）
- 市で所有するスポーツ施設について概要と利用者数を説明（資料5を参照）
- 推進計画に掲載している施策の平成30年度実績と令和元年度予定を説明（資料6を参照）

(3) スポーツ施設整備計画について（※事務局から説明）

- スポーツ施設整備計画について概要、構成素案について説明（資料6を参照）

(4) 今後のスケジュールについて（※事務局から説明）

- 次回開催は12月予定（11月に案内送付）

7 その他

▽池田委員

・資料6を見ると、市でもかなりの数のスポーツ施策をやっていると再認識させられる。これらの施策を参考にしながら、スポーツ施設整備計画の審議に反映させていきたい。

▽加藤委員

・市で多くの事業をやっているが、全てを把握していたわけではなかった。今後、どう市民の皆様にお知らせしていくかが重要になってくる。

▽木田委員

・個人的に市の事業に参加者として参加していた時期があり、今後は違った形で参加していきたいと考えている。市でも様々な事業を行っ

ているので上手く周知して多くの方に参加していただきたい。

▽工藤委員

・加藤委員と同じ意見となってしまうが、事業に対する周知が少し浅いように感じている。

▼事務局

・広報・周知については、事業を実施していく中で、市としても長年の課題であると感じている。従来の広報誌やHPでのPRに加えて、地元のマスコミ活用や、最近ではSNSも利用しているが、なかなか広がっていかない。興味のあるものは参加するが、興味のないものはそもそも目にしないというのが現状であり、いかに目にしてもらおうかという方法を探しているので、良い案があったらご意見をいただき参考にしていきたい。

▽鈴木委員

・帯広市と釧路市はプロ野球の公式戦の誘致を一緒に展開しているが、元々は市民の方が主体的に動いて始まったものだと聞いている。本市では夏の冬季競技の招致が多いが、行政だけの力ではなく、市内在住の人脈の広い方や他都市との連携を図っていけば、その他の競技でも活発に誘致できるのではないか。

▽島崎委員

・総合型地域スポーツクラブを運営している立場から、市で行っている事業に携わることができないか検討していきたい。

▽中村委員

・スポーツ推進委員をやっている立場から今後障害を持った方との関わり方が重要になってくると感じている。パラスポーツの体験教室については参加者が少ない競技もあり、もっとお手伝いしていければと考えている。

▼事務局

・11月にパラスポーツ体験会も予定しており、障害のあるなしにかかわらず、多くの市民の皆さんに参加していただきたいと考えている。

▽永石委員

・市民参加の観点から、もっと市民の方からこういった事業を行ってほしいという意見や要望があってもよいのではないか。市で全てやるのではなく、市民が持ち込んだ企画を市で実施するという形が望まし

い。その場合、今の施設にそのキャパがあるかということが重要となっていく。

- ・パラスポーツの参加者は障害のある方がメインになってしまっていると思うが、障害のない方にも広く知ってもらうPRが必要である。
- ・来年の夏に、東京オリンピックがあることを考えると、気候的にも北海道での事前合宿等が増えていく。そうした中で外国の方をもてなすようなものがあれば、その後の誘致にもプラスになるのではないか。
- ・スポーツ人口を増やすためには、第一次接触が重要であるため、小学校から多種目に接することができるような環境を作るのがよい。そうした環境を作るためにも、指導者のサポートができるような事業が必要である。

▽藤岡委員

・観光という観点から、市外団体に合宿助成金を出している。少子高齢化が進む中、経済も疲弊していき、本市も将来人口が減少することが予想される。PR や口コミの効果もあり、現在、学生も含め相当数の団体が合宿に来ている。市外からアスリートを呼び込むことで経済の活性化を図るとともに、スポーツを見る機会を増やすことができる。宿泊施設が少ないという課題はあるものの、今後も誘致を進めていきたい。

▽前田委員

・今週末から中体連の大会も始まるが、現在、学校単位で1つの部活を維持するのが難しくなっている。アイスホッケーでさえも合同チームを組まなければ大会に参加できないという状況である。大きく変えるのは難しいが、今とれる手段についても今後の審議会で見聞を伺いたいと思う。

▽宮野委員

・総合型地域スポーツクラブという立場で活動している中で、活動できるキャパについて課題を抱えている。部活動もクラブチーム化していく中で、活動場所をどう確保するかというのが問題となっている。団体スポーツの運営や考え方が変わる中で、制度の見直しについて検討していくのも重要である。

・スポーツクラブの運営にあたって、スポーツを指導する人材が不足していると感じている。市だけではなくスポーツ団体側からもより参画しやすいサポートや育成のお手伝いができるとうよいと考えている。

▽本間会長

- ・各分野から委員が集まっているので、議題の審議をするだけではなく、各団体が持っている情報を共有し、多方面の連携につながっていくような審議会としたい。

8 閉会（神保課長）